
秘密からの恋

琉兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秘密からの恋

【Nコード】

N3836BA

【作者名】

琉兎

【あらすじ】

一目ぼれなんてあるわけないと思ってた俺が一目ぼれした。でも、その相手と関わるのがなく半年が過ぎた。そんなとき、俺は彼の秘密を知ってしまう。それが彼との関係を大きく変える。

【夕日よ昇れ】の榊原良介と檜山澗の話。なので【夕日よ昇れ】とリンクしたところがあります。

*** 0 * (前書き)**

これだようやくリンク作品が揃いましたあ！

さらに執筆速度遅くなるかもですけど……許してくださいく
—) > —

その人を好きになったのは、高校生になってすぐ。入学式で、壇上の端に控えていたその姿を見たときだ。俺、檜山澗ひやまゐは前から二番目だったから、俺のところからよくその人の姿は見えた。世間的には一目惚れというんだと思う。今までそんなこと信じてなかったし、あり得ないと思ってたのに。なぜかその人から目が離せずにした。なのに、一回もその人と視線が合うことなんかなくて。ただ、その入学式で名前は知った。

生徒会副会長、ひかきはつじょうすけ 榊原良介。

当時高校2年生。なのにもかかわらず副会長を務め、成績優秀な彼は、まさに生徒の手本のような人だった。俺のところからはステージの裏も少し見える位置にいたから、そこでせいと会長になんやら注意をしていたのも見えた。そしてまた真面目な顔して式の進行を見守っていた。眼鏡の奥のその凛としたまなざしは、何を映してるんだろう。何が好きで、何が嫌いなんだろう。好きな人とか居るんだろうか。なんてことを式の間中考えていた。

でも、それ以降あの人に近づけることもなく、半年がたとうとしていた時だった。僕は偶然、彼の秘密を知ってしまった。しかもそれを知ったことをその場で彼にも知られ、他言するなどと注意していた。悲しいことに、それが彼との初めての会話だった。その後も、彼は何かと僕に構うようになったけど、それはおそらく秘密をばらされないように監視するため。恋愛感情なんか彼にはない。だったから　俺が好きにさせればいい。そう思ったその日から、俺は彼を良と呼ぶようになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3836ba/>

秘密からの恋

2012年1月9日23時50分発行